

リハケア2023 全国地域リハ支援事業連絡協議会

コロナ禍での地域リハビリテーション活動から学んだこと
～広島県における多くの仲間との取り組みを通して～

公立みつぎ総合病院
広島県リハビリテーション支援センター
地域リハビリテーション広域支援センター
三宅 貴志

*本発表ではリハビリテーションをリハと略します

リハビリテーション・ケア合同研究大会 COI開示

筆頭発表者名：三宅 貴志

演題発表に関連し、発表者らに開示すべき
COI関係にある企業などはありません。

広島県 7つの二次保健医療圏域における地域リハ広域センター、サポートセンター

○ 地域リハ広域支援センター施設(計11施設)、地域リハサポートセンター数(計115施設)

・当院は地域リハ広域支援センター、県リハ支援センター双方の指定



広島県における地域リハ活動への影響

2020年3月ごろから

オンライン・DX、対策等、みなさんと一緒です…

1)感染状況が各市町で全く異なる

大きさ・はやさ・いつから～いつまで

2)各センターの立ち位置で業務自体が変わった

病院・老人保健施設、訪問事業所等

3)地域リハのつながりから今の地域が心配

市町・保健所の激務、住民さんの心境は？

広島県ではこのような時だからこそ！

- ・地域リハにかかる関係機関とのつながりを大切に！
- ・県・市町、全地域リハ広域支援センターとコンタクトを

県・市町、全地域リハ広域支援センターとコンタクトを！

共有シートをメーリングリストで活用（ヒントは平成26年広島市豪雨災害）

6月19日発 新型コロナウイルス 事業再開における県内各地域リハ広域支援センターの現状					
園地	施設名	担当者	園地内における活動について	行政との動き	
広島	西広島リハビリテーション病院	岡田T	・入院担当スタッフも「通いの場」などへ行っていたが今後出るかは要検討。 ・当面は難しく、岡だけが地域へ出る予定	・6/1 佐伯区地域支えあい課、6地域包括の通いの場担当者と会議（相談会のような）を実施済み ・6/18 佐伯区認知症家族会（佐伯区主催）でSTが講演予定	派遣先の環境は限られるが、思いのほか
	荒木脳神経外科病院	佐藤PT	・入院担当スタッフの支援はしない方針 ・訪問・通所・外来等担当者に限局し、対応予定 ・区内サポートも、同様な制限があるところが半数。現時点では、西区内拠点の約3分の1が活動開始しているとのこと。まだ派遣依頼は入っていない。	・各包括園地、徐々に活動再開に向けて動かれている。住民が、他の拠点の動向を気にしており、ある包括では、密にならないよう工夫し、再開に向けて、または再開してからの情報交換会を7月に行う予定とのこと。	・西区内のサ
	市立リハビリテーション病院	矢田OT	拠点派遣依頼で昨年度末までに依頼があって凍結している件数は29件。拒否があり、新規立ち上げや継続支援が現時点(6/18)で3件あり。動機付けのPPIにマスク着用時の運動するときの留意点や水分補給などを追加で入れていく予定。体力測定も密になるかどうかを現場で確認予定。	・6/5地域包括の拠点担当者と区の担当者、広域サポートのリハ義(8名)で計15名での会議開催した。運動負荷やマスク着用、水分摂取、体力測定などの環境設定の工夫を共有。来月また集まりを計画している。	区をまたいでのフォローがどこ
	済生会広島病院	長野PT	6/16 広島市安芸区包括から7/6新規立ち上げ支援の依頼あり。	・広島市安芸区 6/16区と包括と長野で話し合い。療法師の活用については、当面、体力測定は見合わせ、感染対策を講じた中での体操指導とフレイルの方への個別指導をメインとすることを申し合わせた。 ・湯田町 6/22 話し合い予定 ・坂町 6/24 話し合い予定 ・府中町 未定	・各行政・包括資料は必要の声掛けや指 ・動機付けで ・リモート会議
広島西	アマノリハビリテーション病院	寺田OT	・住民主体の通いの場: 廿日市市は、6/3よりの支援再開。現在、広域のサポートは、2/5施設のみ支援が可能。 ・スタッフ育成: 病床稼働率が落ちている現在を活用し、入院療法の療法師を、住民主体の通いの場に連れ出し、教育していく方針となる。 ・地域ケア会議: 廿日市市・大竹市とも7月以降再開、その他	・廿日市市がホームページに、市長と広域の合同で生活不活発病予防の動画作成を広域に依頼(2回作成、報償費¥99,000) ・廿日市市: 6/12に住民主体の通いの場に係るDVD19第2回対策会議を市役所にて開催。(感染対策、3歳対策のスライド、運用の工程表等作成) ・大竹市: 住民主体の通いの場について、廿日市市の動きを参考に活	・支援できる前 ・住民に徹底し ・9割以上が外 ・いざい百歳 ・廿日市市の ・場107名中せ URL:https://

- ・当センターとりまとめ半月に1回→県がとりまとめ 2023年3月で終了
- ・県も市町と同様にシートを活用→全地域リハ広域支援センターとも共有

継続して共有してきた内容(一部)

1. 県とリハ支援センター、全地域リハ広域支援センター

- ・各地域リハ広域支援センター内での感染対策や職場の状況
- ・行政との動き？ サポートセンターとの連携状況は？
- ・事業再開で直面する課題は？ その他なんでも！

2. 県と23市町 リハ支援センター・全地域リハ広域支援センター

- ・事業の活動現状は？
- ・再開の判断基準は県のフェーズ？ 市町独自？
- ・住民さんからの問い合わせなどは？

地域リハ広域支援センターからの意見(一部)

1. 直接出会うことができないため やり方の工夫が必要
2. 自施設の感染対策が優先、業務の変更
 - ・派遣や業務にかかる担当者を固定せざるを得ない
3. 市町ごとで感染状況、対策が異なる
 - ・介護保険事業所(通所、訪問など)のサポートセンターが業務と並行してフットワークよく支援
 - ・withコロナを見据え支援をどうしていく? 等

withコロナを見据え 間接的支援からでもできないか？

市町・地域包括支援センター、住民さんに届けたい！
 県・全地域リハ広域支援センター、関係団体とともに検討

○「通いの場」リーフレット作成と活用

「通いの場」での安心・安全のための活動ポイント

※それぞれの「通いの場」の状況に応じた対策を構築してください。

参加者の皆さまへ

体調のチェック **慮る！**

- 体温が平熱である(37.5℃未満)
- 風邪の症状(咳、のどの痛み、鼻水など)がない
- 息苦しさ、だるさがない
- 頭痛、関節痛、筋肉痛がない
- 嗅覚・味覚の異常がない
- 体が重く感じる、疲れやすい、ということがない
- 嘔気、嘔吐、腹痛、下痢がない

持ち物などのチェック **慮る！**

- マスク
- 飲み物(自分専用のもの)
- タオル(自分専用のもの)
- うちわ
- 風通しのよい服装

感染予防のポイント **「通いの場」**

- 手洗い(手指消毒)をする(※1)
- 他の人と十分な距離(できるだけ2m以上(最低1m))を確保する
- マスクを着用する(※2)
- 大声での発声、正面・近距離での会話を控える(休憩時も気をつける)
- 口腔体操では、正面や真横を避け斜め向かいに座る、同じ方向を向き互い遠くに座るなど工夫し、必ずマスクを着用する
- 食食や茶話会では、正面や真横を避け斜め向かいに座り、料理は個別配膳、菓子等は個別包装されたものとし、会話時は必ずマスクを着用する
- こまめに休憩、水分補給をする(※3)
- 鼻水、唾液などが付いたごみはビニール袋で密閉して持ち帰る

帰宅後に!

- 口元に帰ったらすぐに手洗い(手指消毒)をする(※1)
- 口持ち帰ったごみを封をしたまま捨て、手をよく洗う

(※1)手洗いは、石けんやハンドソープで10秒を目安に洗い、流水で15秒すすぐ。手指消毒はアルコール(濃度70%以上95%以下のエタノール(90%以上で一部の有効性あり))を用いて、よくすすぐ。
(※2)マスクを着用して参加する場合には、マスクをしないときと比べて身体への負荷が著しく大きくなる可能性があるため、かかりつけ医の意見を参考に、強度を示すなど、無理のないよう安全第一とする。
(※3)マスク着用により、喉がこもりやすく、喉の乾燥が感じにくくなる。喉の乾きを避けるため、休憩もとりやすい。息苦しさを感じたときは無理をせず、すぐにマスクし、休憩をとる。また、こまめに水分補給を行う。

世話人・代表者の皆さまへ **できるだけ2m(最低1m)**

- 参加者名簿(活動日、名前、連絡先、体調など)を作成する(※4)
- こまめに換気をする(1時間に2回以上、2方向の窓を数分間程度全開にするなど)(※5)
- よく触れる場所(手すり、ドアノブ、テーブル、椅子など)をこまめに消毒する(参加者にも協力してもらい、開始前あるいは終了後に必ず行う)
- 消毒薬濃度0.05%の次亜塩素酸ナトリウム(※6)
- 1回あたりの参加者は、参加者同士の距離を(できるだけ2m以上(最低1m))取れるような人数にする(※7)

(※4)参加者名簿は少なくとも14日間は保管しておく。患者(感染者)が発生した際は、感染拡大防止のため、管轄の保健所(支所)が実施する調査(接触者調査)に協力することが重要。その際、参加者名簿を提供できるよう準備しておく。
(※5)夏場及び冬場における室内の湿度および相對湿度指数のため、冷暖房設備などを活用する。
(※6)次亜塩素酸ナトリウムの濃度が0.05%になるように調製して使う。その後水拭きする。作り直した消毒薬は効果がなくなるので、その都度使い切る。使用中は換気をし、家庭用消毒液を着用する。なお、消毒薬は空間消毒してはならない。
(※7)一度に全員参加するのが難しい場合は、全人数のグループに分けて日替わりで活動する工夫をする。

【問い合わせ先】
 ●●●●市町●●●●県 ☎ - -
 広島県健康福祉局 地域包括ケア・高齢者支援課 ☎ 082-513-3214

○県 地域リハ広域支援センター 構成・脚本、出演

住民主体の「通いの場」の効果的な活動のために
 ～百歳体操のコツを知ろう～

皆さんのご近所で行われている百歳体操を効果的に実施するためのポイントを振り返ります。

いきいき百歳体操 **しゃきしゃき百歳体操** **かみかみ百歳体操**



感染対策において県・全市町が連携 を好機に！

オンラインを活用しているのなら…

ヒントは…当センターが開催してきた

平成時代の機能訓練事業推進 保健婦等 連絡会議

○全市町 事業担当者 連絡会議へ地域リハ広域支援センター等も参加

・市町独自の新たな方法、手段の発見、各圏域内で共有する機会に！



地域リハ広域支援センターとして未来を考える機会に！

オンライン・個別意見交換会 (一対一 本音トーク)



○チーム広域 話(課)題

*継続性の担保(未来に向けて)

- ・後継者をどうしていくか？ 平均年齢50歳……
- ・窓口責任者の業務は多様であり、戦略も…

*県とセンター業務の継続に向けた、広域Cリーダー育成が必要

- ・自施設にとどまらず
- ・アドバイザーに地域リハ先駆者の協力が得れないか？

えかった(現在、つながり・取り組んでいる)こと

- 1 地域リハ広域支援センター連絡会議に複数名で参加
・各センター内で経験者づくりに
- 2 地域リハ推進会議(県TOP会議)へのオブザーバー参加
・地域リハ推進にかかる課題を多くの関係団体と共有
- 3 広島県地域リハ研修事業への関わり
・研修内容の見直し、講師やファシリテーターで協力 等

既存にある機会を工夫・活用しながら…
地域リハ広域支援センター内でのすそ野広げにも！

最後に 先駆者の協力が得れないか？について

～今回の経験や出来事が大きく後押しにつながった～

- ・「出るを自粛」（個人だと動ける）
- ・事業だけでなく、住民さん、個別への関わり
- ・相談役がいてくれたな…… 等

広島で安心して暮らしつづけるために

こどもからおとし
よりまで地域で安
心して暮らせるシ
ステム構築を支援
します

専門知識を持った
サポーターが支援
します

地域の団体と連携
して地域づくりを
サポートします

県地域リハ支援体制をサポートする
R5.7 地域リハマインドを持った先輩方の組織化へ！

法人化までちょっと？かなり？相談対応させていただきました…



今回の経験で得たもの 広島の人みんなで

- ・今までの取り組みを再考する機会に
- ・そしてオンライン・対面問わず、やり方の工夫や場づくりに
- ・結果、お互いに支えあい、パワーをつけ、新たなことを始めるに！

大切にしたいこと

- ・今まで先駆者は、地域リハ支援体制ありき ではなく
地域のニーズに応え、地域の人たちと持続可能な体制に向けて
- ・だからこそ、平時からのつながり・仲間で一緒に考える・動く
この広島流を次世代につなげていきたい